

8 課

8月20日

見えない方を見つつ



安息日午後 8月13日

暗唱聖句

信仰によって、彼は王の憤りをも恐れず、エジプトを立ち去った。彼は、見えないかたを見ているようにして、忍びとおした。(ヘブル11:27、口語訳)

信仰によって、モーセは王の怒りを恐れず、エジプトを立ち去りました。目に見えない方を見ているようにして、耐え忍んでいたからです。(ヘブライ11:27、新共同訳)

今週の聖句

ローマ 8:28~39、ヨハネ 14:1~14、エフェソ 1:18~23、イザヤ 40:27~31

今週のテーマ

ヘブライ人への手紙の信仰の定義はいつでも私たちに挑戦するかのようです。「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです」(ヘブライ11:1)。見えないものをどうやって確信することができるのでしょうか。しかし、これこそまさに暗唱聖句の中でモーセの実例が示していることなのです。「信仰によって、モーセは王の怒りを恐れず、エジプトを立ち去りました。目に見えない方を見ているようにして、耐え忍んでいたからです」(同11:27)。

私たちは、物事がうまく行っているときだけでなく、特に何もかもがうまく行かない時にも「目に見えない方を見る」ように勧められていることは、さらに困難な挑戦に思えます。だからこそ、私たちはキリストのような信仰、すなわち神と神の国についての真理によって形づくられる信仰を必要とするのです。私たちの父なる神の善意についての真理、イエスの御名による力、復活の力、そして神のあわれみは、私たちが試練の中にあるとき、そして何もかも疑いたい誘惑にかられたときに私たちが強く立つために不可欠な真理です。

今週のポイント

神についてのどのような真理が、最悪の状況にあってもなお私たちを支えてくれるでしょうか。

「神が私を愛しておられるなら、なぜ私にこんなことを許されるのだろうか」。このような思いがこれまで何度私の頭をよぎったことでしょうか。周囲の状況を見るとき、私たちは、神は本当に私たちを愛しておられるのだろうか。神が本当に愛しておられるなら、こんなことにはなっていないはずとの思いに捕らわれます。

しばしば私たちに神の善意を疑わせる二つの論理があります。第一に、私たちが、自分が良いと信じることに心も思いも熱く捕らえられているとき、それと異なることを望まれる神のお考えは馬鹿げたものに思われます。第二に、実際の経験が、私たちが信じてきたこととまったく異なるとき、私たちは神の善意を疑います。良さそうに見えるもの、または良さそうに感じられるもの、良さそうに聞こえること、おいしそうなのはその通りでなければなりません。そう考えるからこそ、私たちは自分が受け入れがたい物事について神に腹を立ててしまいます。

しかしその時こそが、信仰の出番です。このように、私たちが神と神の善意を疑う誘惑にかられた時こそ、信仰を働かせるべき時なのです。

問1 ローマ8：28～39は神の善意を力強く描写しています。これらの聖句は、神の善意を疑う思いから私たちをどのように守ってくれますか。

ローマ8：32には、周囲の状況に振り回されないように私たちを守る極めて大きな助けとなる重要な論理が含まれています。「わたしたちすべてのために、その御子をさえ惜しまず死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものをわたしたちに賜らないはずがありませんか」。私たちのためにイエスを死に渡された神が、無慈悲で出し惜しみするなどということは考えにくいことです。

神が私たちに対して寛大であるという真理は、キリストの死に示されており、それは試練が私たちを抱かせるあらゆる疑いよりも強い衝撃を私たちの思考に与えるに違いありません。

真理（神の慈愛）はどのようにして疑いよりも強い効果を持ち得るでしょうか。神がイエスをあなたの身代わりとして死ぬためにお与えになったという真理を瞑想してください。さらに、この信じがたい寛大さは、今日もあなたのために多くの形で働き続けています。この事実はあなたの信仰にどのような影響を与えますか。

「何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれをかなえてあげよう」(ヨハ14:14、口語訳)。

イエスが弟子たちと一緒にいられる時間はもうそれほど長くはありませんでした。彼らの支えであり励みであったお方は天に行こうとしておられました。そして弟子たちは戸惑いと無力を感じ始めていました。弟子たちはもはや物理的に彼を見ることができなくなるのでした。しかしイエスは、そんな彼らに驚くべき約束をお与えになりました。

ヨハネ14:1~14を読んでください。13節と14節によれば、イエスは私たちに、彼の名によって願うことは「何事でも」かなえると約束しておられます。この約束のゆえに、私たちはほとんど必ず祈りの最後に「イエスの御名によって祈ります。アーメン」と付け加えるのです。

問2 私たちは通常どのような意味でこの言葉を使っているでしょうか。イエスはどのような意味で、私たちにこのように祈るよう命じておられるのでしょうか。その意味を探るために、この聖句にどのような手掛かりがありますか。

私たちが「イエスの御名によって」願うとき、私たちは、全天が私たちのために働いていることを確信することができます。私たちの周りで働く天使たちの姿は見えないかもしれませんが、彼らは私たちの願いを成就させるために、イエスの御名によって天の御座から遣わされています。

私たちがイエスの御名によって祈るとき、私たちの周りで何か違うことが起きるのを期待して目を開けますが、実際には何も変わっていないように見えます。しかしながら、イエスが嵐を静められたときのように、神の力が劇的な形で表されることがある一方で、ゲツセマネで神の力がイエスを支えたときのように、静寂の内に、気づかれずに表されることもあります。劇的なことは起きないかもしれませんが、それは神が私たちのために働いていないことを意味しません。

イエスが直接顔と顔を合わせてあなたに語りかけるのを想像しながら、もう一度ヨハネ14:1~14を読んでください。あなたはこの約束からどのような希望と励ましを得ますか。同時に、「私のために成就された約束を持つ者として、私の生活の中の何がこの約束にふさわしく、私の心の中の何を必要とするだろうか」と自問してください。

復活は人間の無力さの問題について解決を与えます。イエスの生と死、そして復活について考えるとき、私たちはしばしば、イエスの死は私たちが神との正しい関係に回復する出来事であったと言われます。もちろんそれは事実です。

しかしながら、復活は救いに、ある特別な意味を加えます。イエスの復活が重要であるのは、それがいつの日か私たちが復活することを示しているからだけではありません。復活はイエスを父なる神の右、すなわち力と権威の座に着かせたのです。神はこの復活の力と同じ力を、今日も私たちのために用いることがおできになるのです！

問3 エフェソ1：18～23 でパウロは神の力について述べていますが、この箇所は復活の力についてどのようなことを教えていますか。あなたはそこにどのような希望と約束を見いだすことができますか。

パウロは、エフェソの人々が、神の助けによって正しく理解できるいくつかの事柄を悟ることができるようにと祈っています。それらは、①新たに造り変えられて、イエスが招いておられる永遠の未来に入る希望があること、そして、②私たちが、私たちのために明らかにされたその力を理解することです。

パウロは次に、この力がどれほど驚くべきものであるかを描写しています。今日、私たちにも与えられているこの力は、地から呼び出し、命によみがえらせた力であるだけでなく、父なる神の右の力の座へと引き上げた力でもあるのです。

パウロはさらに続けます。復活は単にあらゆる力をイエスに与えただけでなく、イエスの民が必要とするあらゆるものを、永遠にわたって、統治し、提供する力を与えたのです。

あなたの生活の中で、復活されたキリストの力を必要とする事柄を書き出してみてください。書き終えたら、それらの事柄すべてにこの力を用いることができるよう祈ってください。同時にこの力があなたの生活により自由に働くことができるよう、あなたが改めるべきこと、選択すべきことがないか考えてみましょう。

かつてある人が、人生がもつれてしまったときには、神のところに持って行ってほどもらいなさいと言いました。私たちがそうするのを、神はどんなに長く待っておられることでしょうか。驚くことに、私たちはそれでも糸が切れそうになるまで、その問題にしがみつこうとします。なぜ私たちは絶望するまで主のもとに行かないのでしょうか。

問4 1ペトロ5：7を読んでください。ペトロは詩編55：23(口語訳55：22)から引用していますが、ここにある基本的なメッセージは何でしょうか。(マタ6：25～33参照)

1ペトロ5：7は非常に単純です。隠された秘密はなく、読んだ通りです。この「任せる」という言葉(英語の“cast”)は、「放り出す」、または「明け渡す」ことを意味します。任せてしまえば、苦痛や心配の種となっていたことは、もはやあなたと何の関係もなくなります。しかしもちろん、私たちの重荷はどこにも放り出すことはできませんし、心配も消えてなくなりません。天の父なる神が重荷をお与えになるのですから、その解決をも約束しておられます。イエスがマタイ6章で語っておられるのはこのことです。任せられないのは、それが難しいからではなく、むしろそれが簡単すぎて、都合が良いように思えるからです。

心配の種はどこにでもあります。仕事のプレッシャー、思いもよらない批判、必要とされていない、愛されていないと感ずること、健康や経済の心配、神の前に清められていないと感ずること、赦されていないと感ずることなどです。

それが何であれ、私たちが問題にしがみつくと一つの理由は、自分がだれよりもその問題をうまく解決できると思っていることです。しかしペトロは、それを考え直すように強く勧めています。神が心にかけていくくださるのですから、私たちが思い煩う必要はないのです。しかし、神は離婚問題が重くのしかかる時、または自分がまったく無力に感ずられるときにも、私たちに心にかけて、そのような問題にも介入してくくださるのでしょうか。聖書はどのような状況をも変えるほど神は私たちに心にかけていくくださると言います。

だれも自分のことを気にかけてくれないことは、悲しいことです。神が私たちのことを知らず、心にもかけておられないと考えることは私たちを絶望させます。

バビロンの捕囚となったユダ民族は、神が彼らの置かれた状況をあまり気にかけておられないように感じました。彼らはまだ捕囚の身であり、彼らの罪のために、いまだ神に見放されていると感じていました。しかしイザヤは彼らに慰めの言葉を語ります。イザヤ40章でイザヤは美しい言葉で、いとも優しく彼らの神について民に語りかけます。「主は羊飼いとして群れを養い、御腕をもって集め／小羊をふところに抱き、その母を導いて行かれる」（イザ40：11）。しかしその後長く、捕囚の民は次のように考えていました。「主よ、あなたはどこにおられるのですか。私たちにはあなたが今もそこにおられ、私たちを心にかけておられる証拠は何も見えないのです！」

問5 イザヤ 40：27～31 を読んでください。イザヤは神をどのように描写していますか。「わたしの道は主に隠されている、……わたしの裁きは神に忘れられた」と信じる民に答えるために、この神の描写はどのように語りかけますか。

自分たちの道が神に隠されていると考えたもう一つの民がエステル記に出てきます。エステル記では神について一度も言及されていません。しかしながら、この物語全体を通して、神の民を滅ぼすために出された変更不能な法律から彼らを救出するために神が介入するというドラマが展開します。この物語は過去の物語を描いているだけでなく、未来において神の民が再び経験する迫害と、彼らを滅ぼすために再び発布される法律をも象徴しています（黙13：15）。このような恐ろしいことが起きたなら、神は間違いなくその民をすずに見捨てしまっているはずとの結末を想像するのは容易なことです。しかし、私たちは恐れてはなりません。エステル記の中で神の選民を救われた同じ神が、最後の危機の時にも再び神の民を救い出されるのです。

捕囚の民に示された神の描写を読んで、あなたは、神は消え、その民を見捨てたと感じている人々に神をどのように説明しますか。彼らに、信仰の目で見ること、人の目に見えるものに頼らないことをどのように教えますか。

参考資料として、『国と指導者』第49章「王妃エステルへの決心」を読んでください。

「神は彼らに求めるなら聖霊を与えと言われなかつたらうか。そして聖霊は実在の真の案内人ではないのだからか。ある者たちは、まるでそれが彼らの憶測であるかのように、御言葉通りに神に従うのを恐れているように見える。彼らは主に教えを求めて祈るが、神が誓われた言葉を信じてすでに神から教えを受けていると信じるのを恐れる。私たちが御霊の教えを受けて謙遜に天父のもとに行き、喜んで熱心に学んでいるなら、なぜ神の約束の成就を疑うのだからか。一時たりとも、あなたは疑うことによって主を辱めてはならない。神の御心を知ることを求めるなら、神が働かれるためにあなたにできることは、御心を行うことによって、主は導き、道を示し、祝福されると信じることである。私たちは神の教えを誤解しないために自分を信用しないようにする。しかし、それさえも祈りの課題として主に信頼しなさい。力の限りに主に信頼しなさい。そうすれば主の聖霊が、主のご計画と御摂理の働きを正しく理解できるようあなたを導くでしょう」(『原稿集』第6巻225ページ、英文)。

「信仰は疑いと反対する影響力と闘う中で強くなる。試練を通して得た経験は、最も高価な宝石よりも価値がある」(『教会への証』第3巻555ページ、英文)。

話し合いのための質問

- ① 私たちが見えないと信じている物、実在はするが人間の目では見えない物にはどのような物があるか、クラスで話し合ってみましょう。私たちが「見えない方」を見ることを理解する上で何か助けとなるでしょう。
- ② もし、「信仰は疑いと反対する影響力と闘う中で強くなる」とするなら、そしてそのような経験が「最も高価な宝石よりも価値がある」極めて価値あるものへと導くとすれば、そのような経験を通して、私たちはそのような闘いをどのように見るようになるでしょうか。
- ③ クリスマンであってもほとんどの人が、少なくとも人間の目には最悪と思えるような状況に置かれるのを見たことがあるでしょう。祈りと努力にもかかわらず、想像し得る最悪のことが起きたとき、私たちは今週学んだ光の中で、そのようなことをどのように理解すれば良いでしょうか。